

新型コロナ 5類への移行からひと月 ～正しくゆるめて、正しく備えよう～

5月8日に新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の感染症法上の位置づけが「2類」から「5類」に引き下げられました。それにより、みなさんの日常生活にも様々な変化が生まれています。

マスクは個人の判断、「密」制限も緩和

これまで、外出時にはほぼ「必ず」着用していたマスクは、基本的に「個人の判断」でOKになりました。また、「人が大勢集まる場面の制限」も大幅に緩和されました。観光地をはじめ、日常の様々な場所が活気づいて、賑わいが一気に戻ってきました。

病院受診は

新型コロナに関連する外来診療（検査を含む）にかかる費用の公費負担は5月7日で終了しましたが、「発熱や喉の痛み、咳」などの症状がある場合は、これまでどおり「発熱者外来」への予約をしたうえで受診をお願いします。

予約なしで直接来院された場合は、受付で症状をお聞きし、内容によっては「発熱者などの待機場所」での診察待ちをお願いすることがあります。〔右の図は高槻市HPより〕

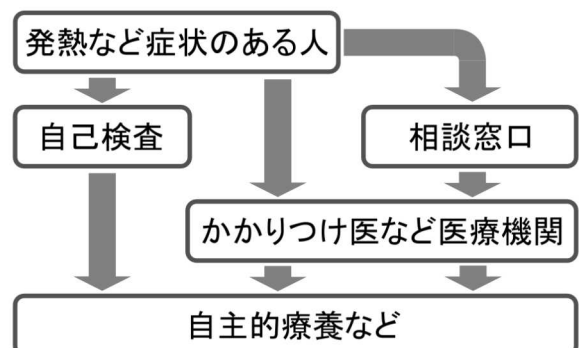
これからの新型コロナとの向き合い方

新型コロナ陽性であっても、これまでのよ

うに「自宅待機の義務づけ」はなく、「濃厚接触者」として行動を制限されることもなくなりました。けれども、新型コロナウイルスの感染力がなくなったわけではありません。

過度に恐れる必要はありませんが、**新型コロナに正しく備えていくためのポイント**をおさらいしておきましょう。

- ①人混み、換気が十分でない場所ではマスクを着用しましょう。
- ②病院や高齢者施設など重症化リスクの高い方がいる所でもマスクを着用しましょう。
- ③体調が万全でないときの無理は禁物。とくに、人と会うときには、相手への影響も考えるようにしましょう。
- ④食事の前、外出から戻ったときなどは手洗い（アルコールでの消毒も含め）をしましょう。



インフルエンザはおおよそ「冬に流行する」ことが主流ですが、新型コロナは季節によって流行するのか、まだはっきりしていません。人の流れ（海外との往来も含め）が一気に活気づいたことが、今後の流行にどう影響するかも未知数です。ニュースなどにも関心をもちながら過ごしていきましょう。

〔富田町病院看護部長 永久教子〕